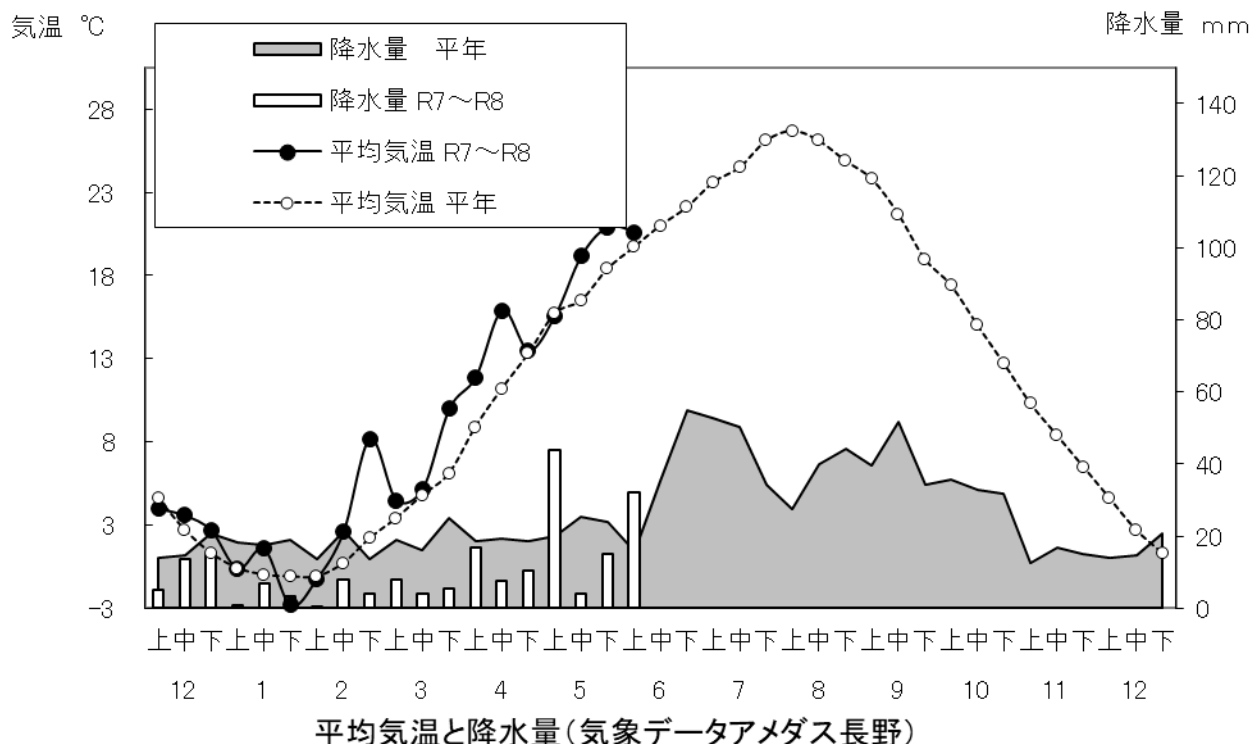


農作物の生育状況（6月15日現在）について

令和8年6月15日
長野農業農村支援センター

【気象データ】



【麦類】

大麦のシュンライは平年より2日程早い5月29日から収穫が開始された。大きな湿害や病害、倒伏もなく生育は良好であった。小麦は6月14日から収穫が開始されている。台風6号の強風、降雨により、長野市南部のハナチカラで倒伏が助長された。

コムギ赤かび病の防除は、千曲市で5月上旬、長野市南部で5月10日頃に実施された。巡回調査では長野市南部で発生が確認された。

【水稲】

気温の変動が大きく、葉先焼けが各地で確認された。また、乾湿により、生育不良が多く散見された。病害については信更町ではか苗病が4件、千曲市では過湿による苗立枯れ病の発生が確認されている。にじのきらめきでは、一部で気温上昇により積算温度への到達が早まり、芽が伸びすぎる事例が多く確認された。

【果樹】

(1) りんご

「ふじ」の6月15日における肥大調査では前年比縦108%、横110%、平年比縦115%、横107%と前年・平年より肥大良好である。ふじを中心に隔年結果が確認されているが、結実量は確保されている。また、5月1日に降雹のあった地域では果面の傷等が確認できるため、摘果で対応している。病害虫では腐らん病の発生が散見されている。

(2) ぶどう

ぶどう「無核巨峰」の満開は5月28日で、平年より8日早く、昨年より8日早かった。同一品種内の生育のバラつきが大きくなっている。また、降雨が定期的にあるため防除間隔が空いた園地では病害の発生が散見される。

(3) なし

概ね必要な結実量は確保されている。「南水」の6月15日肥大調査では前年比縦110%、横112%、平年比縦102%、横104%、と前年及び平年より肥大良好である。

(4) 核果類

開花期の天候不順等で一部地域、品目、品種で結実不良が発生したが、概ね必要な結実量は確保されている。「川中島白桃」の6月15日肥大調査は前年比縦94%、横111%、側110%、平年比縦97%、横108%、側108%、と縦比以外は前年及び平年より肥大良好である。また、5月1日に降雹のあった地域では果面の裂傷、サビの発生が見られ摘果で対応している。せん孔細菌病の春型病斑は平年並みの発生である。

今年はスモモヒメ及びモモシンクイガの発生が早い傾向にある。

あんずは生育が早まり収穫・出荷が6月10日開始している。平和では、高温・乾燥などの影響によりホウ素欠乏の症状が発生している。

【野菜】

(1) アスパラガス

平坦部及び準高冷地帯の半促成作型（施設）、露地作型は収穫終了～立茎中であり、5月立茎は夏どりが開始されている。露地では昼夜の温度差と降水量が若干少なかったことから、夏芽の萌芽は少ない傾向である。

(2) 果菜類

半促成加温作型のキュウリの生育は、収穫後期となっている。無加温の作型は、天候に恵まれ生育は順調。半促成加温作型トマトの生育はほぼ順調であり収穫中である。病害虫について、アザミウマの発生が見受けられる。露地ピーマンの定植について終了。寒暖差により生育が若干遅い。

【花き】

(1) トルコギキョウ

5月の平均気温が低かったことから、平年よりも1週間から10日程度生育が遅れている。病害では、フザリウム菌、ピシウム菌による立ち枯の発生が目立っている。

(2) コギク

4月下旬の台風以降、5月下旬降雨があったことから、草丈も順調に伸びている。

【畜産】

永年性牧草は飯綱町川上で開花期終わり、草丈は130cmくらい。採草地での1番刈りが5月下旬から始まっている。

エンバクは信濃町野尻で出穂期、草丈は60～80cmくらい。一部で湿害による生育不良及びかさ枯れ病が見られた。

デントコーンは信濃町で5月下旬は種、草丈は20cmくらいで4～4.5葉期。